

旧東ドイツにおける幼児のための歌集本

Sputnik, Sputnik, kreise

——「職業」の歌の旋律と歌詞の分析を通して（2）——

Songbook *Sputnik, Sputnik, kreise* for Preschoolers in
German Democratic Republic:
Through the Analysis of Melody and Lyric about
Jobssongs for Preschoolers (2)

北川 聖子

Seiko Kitagawa

はじめに

保育者に必要とされる能力の1つに、「音楽表現（弾き歌い）」がある。しかし近年、専門学校や大学に入学する時点で、BURGMÜLLER（『ブルクミュラー』）などに取められたレベルの楽曲を弾くことのできる学生は、ごく僅かである^{註1)}。そのため、ピアノの演奏技術を向上させるための指導法の研究や、弾き手のレベルに合わせた教材の開発（楽譜の移調や編曲）は盛んになされている。

一方、歌唱のための教材研究に関しては、不十分のように見受けられる。そもそも「音楽（科）」は、明治期から昭和初期にかけて「唱歌（科）」^{しょうか}と呼ばれていたように、また、「唱歌」が「歌唱（歌うこと）」を意味していたことから、「歌う」という行為こそが、「音楽における様々な感覚」を身に付けるための「基本動作」となるため、軽視すべきではない。

そこで、本研究では、「基本的な音程感覚やリズム感を身に付けるためにはどのような教材が適切であるのか」という問題意識の下、旧東ドイツにおける幼児のための歌集本に着目する^{註2)}。そして、楽曲の構造を解明すべく、歌の旋律と歌詞の分析を行う。

これまでの研究

分析する歌集本

分析の対象とする歌集本は、*Sputnik, Sputnik, kreise*¹⁾である。これは、*Bildungs- und*

*Erziehungsplan für den Kindergarten*²⁾(以下、『幼稚園のための陶冶と教育計画』)^{注3)}の中で指定されている歌集本の1つである。この『幼稚園のための陶冶と教育計画』の「音楽」の項目の中で取り扱われている楽曲を抽出し、一覧表にした(表1)。

① 「職業」の歌— Wißt ihr, was ich werden will (ぼく(わたし)が何になりたいのか分かる(?))
の1～8までの分析結果のまとめ

これまでの研究³⁾のまとめとして、上述した表1の中の1～8までの楽曲に関する分析結果を以下に提示する(表2・表3)。

まず、旋律については、調性・拍子・開始音・終止音において一貫性があり、音の跳躍も完全5度を超えるものはなかった。また、音域も、最低音が概ねd¹で最高音がa¹かh¹のどちらかであった。ちなみに、リズムは4分音符・4分休符・8分音符・8分休符の組み合わせしかなく、付点のリズムなどは使用されていなかった。

表2 旋律に関する分析結果のまとめ

番号	調性	拍子	小節	音域	最大跳躍(上行/下行)	始/終
1	D dur	2/4	10	d ¹ ～h ¹	完全5度/長3度	a/fis
2	D dur	2/4	12	fis ¹ ～h ¹	短3度/短3度	a/fis
3	D dur	2/4	8	d ¹ ～h ¹	完全5度/完全5度	d/d
4	D dur	2/4	8	d ¹ ～a ¹	なし(長2度)/完全5度	d/d
5	D dur	2/4	12	d ¹ ～h ¹	長3度/完全5度	d/d
6	D dur	2/4	8	d ¹ ～h ¹	長3度/長3度	d/d
7	D dur	2/4	8	d ¹ ～a ¹	長3度/完全5度	d/d
8	D dur	2/4	16	d ¹ ～a ¹	完全4度/完全5度	d/d

表3 歌詞の内容と韻に関する分析結果のまとめ

番号	職業	音型	韻の種類
1	パン屋(ケーキ屋)	繰り返し使用	脚韻
2	大工?	繰り返し使用	脚韻
3	農家(トラクター)	—	脚韻
4	運転手(各種乗り物)	繰り返し使用	—
5	運転手(バス)	繰り返し使用	脚韻
6	運転手(バス・鉄道)、パイロット	繰り返し使用	脚韻
7	鍛冶屋	繰り返し使用	脚韻
8	運転手(除雪車)	繰り返し使用	脚韻

次に、歌詞の内容については、乗り物を運転する職業が半数以上を占めた。また、ある「音型」が繰り返し使用され、その旋律の流れと詞のアクセントが合致し、さらには脚韻を踏ませる、という工夫がなされていた。

旋律と歌詞の分析

①「職業」の歌－ *Wißt ihr, was ich werden will* (ぼく(わたし)が何になりたいのか分かる(?)) の9～11までの分析

本稿では、上述した研究(1～8)の分析結果を踏まえ、続く9～11までの3曲を対象に、同様の方法で旋律と歌詞の分析を行う。旋律に関しては、楽曲の構造を視覚化するために、それぞれの音をドイツ音名で表記し、歌詞に関しても、韻を併記した(表4～表6)。

《*Einen Traktor möchte ich lenken* (トラクターを運転したいんだ)》

譜例1の楽曲は、D dur、2/4拍子、10小節の、オブリガート(高音部譜表2段組)の形式で作られている。上段の音域は、 a^1 から fis^2 までで、冒頭の山を描くようななだらかなメロディ・ラインから始まり、完全4度を超えるような跳躍はない。下段の音域は、 d^1 から h^1 までで、こちらも概ね順次進行(上下行)している。開始音も終止音も、ともに主音で、特徴は、「付点のリズム」が使用されていることである。

そして、歌詞は3番まであり、定まった音型は見当たらない。4小節目と8小節目で、さらに6小節目と10小節目で、それぞれ脚韻を踏んでいる。「ぼく(わたし)」はトラクターを欲しがり、運転したい、と切に願っている。遊びのための玩具のトラクターではなく、農作業のための「本物のトラクター」を手に入れ、運転することを夢見ている。

表4 音型と韻

	1 番	2 番	3 番
D-E-Fis-G-Fis-E-Fis-D,	lenken	dauern	Erde
Fis-G-A-H-A-Fis-E,	mir	dann	Spiel
D-D-E-G-Fis-G-A-H,	verschenken	Bauern	Pferde
A-G-Fis-D-E-E-D.	dafür	kann	viel

《*Überall, wohin man schaut* (見渡す限り至る所で)》

譜例2の楽曲は、D dur、2/4拍子、12小節で作られている。音域は、 d^1 から h^1 までで、開始音は第5音で、終止音は主音である。1小節目から4小節目までの旋律は、譜例1と同様、山を描くようななだらかなメロディ・ラインとなっており、その旋律が3段目にも全く同じ形で繰り返されて終わる。その間の2段目においては、完全4度を超える跳躍はなく、5小節目から6小節目の旋律

が、次の7小節目から8小節目にも繰り返されている。

そして、歌詞は2番まであり、1段目と3段目のそれぞれ最後の小節で、さらに、6小節目と8小節目のともにeの音で脚韻を踏んでいる。特徴は、ich (ぼく・わたし) などといった人物の主語はなく、関係副詞を伴う事物が主語となり、wird (基本形 werden) + 動詞の過去分詞形の受動態で書かれていることである。住宅・保育所・学校といった建物が次々と建設されていく風景が描出されている。詞の中から特定できる職名はないが、建築現場や建設現場と関係する、大工・とび職人・左官工・内装工などが想定されうる。

表5 音型と韻

	1 番	2 番
A-A-H-H-A-A-G, G-Fis-E-D,	aufgebaut	aufgebaut
E-E-E-E-A-E-E,	Stock	Kinderheim
E-E-E-E-A-E-E,	Häuserblock	sein
A-A-H-H-A-A-G, G-Fis-E-D.	aufgebaut	aufgebaut

《Auf dem Bauplatz in der Stadt (町の建築現場で)》

譜例3の楽曲は、D dur、2/4拍子、9小節で作られている。音域は、d¹からd²までで、長6度の跳躍がある。開始音は第5音で、終止音は主音である。特筆すべき点は、付点の「アウフタクト」が登場すること、つまり、「不完全小節」となっていることである。

そして、歌詞は2番まであり、定まった音型は見当たらない。2段目の2小節目のaの音と最後の小節のdの音で脚韻を踏んでいる。

この詞も譜例2同様、ichなどといった人物の主語はなく、事物が主語となっている。家は今まさに建築中で、そこに住むであろう家族についても言及されている。譜例3においても、詞の中から特定できる職名はないが、建築現場と関係する、運搬車(石やコンクリート)の運転手・大工・とび職人・左官工・内装工などが想定されうる。

表6 音型と韻

	1 番	2 番
A-G-Fis-Fis-E-E-D-D-H-H-G-H-A,	ab	dann
G-Fis-E-G-Fis-G-A,	grau	klein
D-A-G-Fis-E-A-D.	Häuserbau	ein

考 察

①「職業」の歌－*Wißt ihr, was ich werden will*（ぼく（わたし）が何になりたいのか分かる（？））の9～11までの分析結果のまとめ

分析を行った旋律と歌詞に関する結果を以下にまとめた（表7・表8）。

まず、調性は全てD durで、拍子も全て2/4であった。小節は、9小節・10小節・12小節がそれぞれ1つずつであった。音域は、全て $d^1 \sim d^2$ に収まり、跳躍も6度を超えるものはなかった。開始音と終止音は、第5音（a）もあったが、大半が主音（d）であった。とりわけ、「オブリガート」の形式や、「付点のリズム」、「アウフタウト」が登場したことを記しておきたい。

次に、「職業」は、農業関係や建築・建設関係などの業種が取り扱われ、乗り物は、トラクターやトラックが登場した。また、譜例2にのみ「繰り返し使用される音型」があり、韻については、全ての楽曲において脚韻が見られた。

表7 旋律に関する分析結果のまとめ

譜例	調性	拍子	小節	音域	最大跳躍（上行／下行）	始／終
1	D dur	2/4	10	下段： $d^1 \sim h^1$	下段：長3度／長3度	d／d
2	D dur	2/4	12	$d^1 \sim h^1$	完全4度／完全4度	a／d
3	D dur	2/4	9	$d^1 \sim d^2$	長6度／完全5度	a／d

表8 歌詞の内容と韻に関する分析結果のまとめ

譜例	職業	音型	韻の種類
1	農夫、農家（トラクター）	—	脚韻
2	建築関係者、建設関係者	繰り返し使用	脚韻
3	建築関係者（トラック）	—	脚韻

おわりに

本稿では、旧東ドイツ政府の『幼稚園のための陶冶と教育計画』の中で指定された歌集本 *Sputnik, Sputnik, kreise* に着目し、その中の①「職業」の歌－*Wißt ihr, was ich werden will*（ぼく（わたし）が何になりたいのか分かる（？））のうちの3曲（9～11）を対象に、旋律と歌詞の分析を行った。

その結果、旋律に関しては、①付点のリズム・②アウフタクト（不完全小節）・③音域（1オクターブへの広がり）・④音程（6度の跳躍）の要素が盛り込まれていることを、また、歌詞に関して

は、家や施設などを建築・建設する職業が加えられていることを、新たに見出すことができた。

以上の分析結果を踏まえた上で、その他の楽曲の分析を今後の課題としたい。

引用文献

- 1) Bachmann, F., Smolik, E., & Bimberg, S. (Ed.). (1964). *Sputnik, Sputnik, kreise: Ein Liederbuch für die Vorschulerziehung* (9. Aufl.). VEB Friedrich Hofmeister Musikverlag.
- 2) Regierung der Deutschen Demokratischen Republik Ministerium für Volksbildung. (1970). *Bildungs- und Erziehungsplan für den Kindergarten*. Volks und Wissen Volkseigener Verlag.
- 3) 北川聖子. (2023). 旧東ドイツにおける幼児のための歌集本 *Sputnik, Sputnik, kreise* : 「職業」の歌の旋律と歌詞の分析を通して (1). *武蔵文化論叢*, **23**, 1-25.

参考文献

- 穴澤彩佳. (2020). 保育現場における子どもの歌の選曲基準に関する一考察：子どもの声域に着目して. *國學院大學北海道短期大学部紀要*, **37**, 83-100.
- 日高まり子・横山祐里奈. (2021). 幼児の歌唱声域と子どもの歌曲集の音域についての考察：あそび歌300曲の分析を通して. *宮崎国際大学教育学部紀要『教育科学論集』*, **8**, 108-123.
- 井下べに. (2019). 旧東ドイツの幼児音楽教育に関する研究：指導書『幼稚園の音楽』を中心に. *広島大学大学院教育学研究科紀要第二部*, **68**, 281-288.
- 厚生労働省 (編). (2022). *保育所保育指針解説* (第8刷). : フレーベル館.

注 釈

注1) 筆者が担当する授業科目 (「保育の表現技術 (ピアノ)」・「ピアノ演習 I」) を履修している学生のうち、該当者は約20%にすぎなかった。

注2) 日本の幼児教育においては、ドイツの F. Fröbel (1782~1852) の思想が受容されたため、Fröbel 著『母の歌と愛撫の歌』や J. A. Hiller (1728~1804) 著『子どものための歌曲集』に関する研究が進められてきた。しかし、20世紀の公教育で使用された歌唱教材に関する研究は乏しい。そこで、「どのような歌唱教材が旧東ドイツ政府によって実際に推奨されたのか」ということを調査する中で、入手できた史料が、後述する *Bildungs- und Erziehungsplan für den Kindergarten* であった。こうした経緯から、この「教育計画」の中で指定されている歌集本 *Sputnik, Sputnik, kreise* に着目し、その中に収録された楽曲を順次分析していくこととした。

注3) 旧東ドイツ政府が、幼稚園における教育方針および教育課程を示したものである。目次は「幼稚園での生活の形成」とあり、「音楽」・「遊び」・「作業」・「お絵描き」・「お昼寝」・「お散歩」などの項目から構成されている。

謝 辞

本稿で取り扱った楽曲の歌詞（ドイツ語）の翻訳は、全て筆者が行った。その際、光野正幸武蔵大学名誉教授に監訳頂いた。心より感謝申し上げます。

表1 *Sputnik, Sputnik, kreise* から選ばれた楽曲

	曲名	ページ
①	<i>Wißt ihr, was ich werden will</i>	
1	Backe, backe, Kuchen	2
2	Hammer, Hammer, klopf, klopf	3
3	Traktor rattert früh bis spät	5
4	Komm, wir spielen Eisenbahn	5
5	Hinter der Garage steht der Autobus	6
6	Auf der Straße fahren Autos	7
7	Eins, zwei, drei, vier, fünf, sechs, sieben — klopf der Schmied	8
8	Bahn, Bahn, Bahn! Der Schneepflug kommt	8
9	Einen Traktor möchte ich lenken	10
10	Überall, wohin man schaut	10
11	Auf dem Bauplatz in der Stadt	15
12	Wißt ihr, was ich werden will	16
13	Müller, hast du nichts zu mahlen	19
14	Die Mutter pflegt die Hühner all	20
15	Kran, Kran, Kran	25
16	Rollen Kohlenwagen	26
17	Ein langer Zug kommt angebraust	27
②	<i>Wolln wir auf den Spielplatz gehn</i>	
18	Liebes Püppchen, schlaf e ein	34
19	Jetzt kommen viele Musikanten	35
20	Kreisel, Kreisel, kleiner Mann	36
21	Kreisel, Kreisel, tanz einmal	36
22	Machet auf das Tor	41
23	Einen Roller hab ich	43
24	Kam ein kleiner Teddybär	45
25	Wir gehn so gern spazieren	52
③	<i>Was ist nur auf dem Felde los</i>	
26	Stachlig grüne Igelein	60
27	Miezekatze, was treibst du	61
28	Schmetterling, nun flieg geschwind	63
29	Den ersten bunten Blumenstrauß	65
30	Suse, liebe Suse, was raschelt im Stroh	71
31	Widewidewenne heißt meine Puthenne	74
32	Kastanien, Eicheln hab ich hier	76
33	Schmetterling, du bunter	77
34	Der Regen wäscht die Wege rein	77
④	<i>Guten Morgen, ein neuer Tag beginnt</i>	
35	Wer hat Angst vorm Zahnarzt	85
36	Reichet euch die Hände	85
37	Der Vogel singt, die Katze schnurrt	87
38	Guten Morgen, vorbei ist die Nacht	89
⑤	<i>Es war eine Mutter, die hatte vier Kinder</i>	
39	Donner und Blitz	95
40	Liebe, liebe Sonne, scheine doch recht hell	98
41	Der Sommer, der Sommer	99
42	Im Sommer gehn wir baden	99
43	Diese Pfützen	101
44	Der Winter ist kommen	108
45	Schön warm ist's im Zimmer	109
46	Frau Holle, Frau Holle, die schüttelt ihre Betten aus	110
⑥	<i>Wir wollen feiern heute</i>	
47	Seht die bunten Fahnen wehn I	114
48	Große Leute, kleine Leute feiern Ersten Mai	114
49	Kommt alle her zum Singen	115
50	Wir schenken euch zum Schulanfang	116
51	Faßt die bunten Bänder an	118
52	Rote Fahnen, blaue Fahnen	118
53	Am Kindertag beim Fackelzug	120
54	Has, Has, Osterhas	126
55	Ostern, Ostern	128
56	Lieber, guter Weihnachtsmann	130
57	Braver, braver Nikolaus	130
58	So viel Heimlichkeit	130
59	Oh, es riecht gut	131
60	Frau Holle, Frau Holle, nimm die Kissen zur Hand	132
61	Weiße Flocken fallen vom Himmel	133
62	Laßt uns froh und munter sein	134

出典：Sputnik, Sputnik, kreise

Einen Traktor möcht ich lenken

The image shows a musical score for the song 'Einen Traktor möcht ich lenken'. It consists of three systems of music. Each system has a vocal line (treble clef) and a piano accompaniment line (treble clef). The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 2/4. The lyrics are written below the vocal line. The first system starts with a rest for the piano part. The second system has a piano part with notes. The third system also has a piano part with notes. The lyrics are: '1. Ei - nen Trak - tor möcht ich len - ken, ei - nen Trak - tor wünsch ich mir! Vie - les wollt ich gern ver - schen - ken, - gäb mein Spiel - zeug hin da - fur.'

2. Nicht mehr lange wird es dauern, / einen Traktor fahr ich dann. / Zeig in unserm Dorf den Bauern, / was mein Traktor leisten kann.

3. Zittern sollte dann die Erde! / Schöner wär's als jedes Spiel. / Zwanzig Ochsen oder Pferde / schaffen wohl nicht halb so viel.

Worte: Walter Krumbach

Weise: Gisela Hein
Satz: Fritz Bachmann

譜例 1 《Einen Traktor möcht ich lenken (トラクターを運転したいんだ)》

出典： *Sputnik, Sputnik, kreise* の10ページ。

【訳詞】 (筆者訳)

1. トラクターをほく (わたし) は運転したいんだ、
トラクターが欲しい！
何でも喜んであげちゃうよ、
玩具だってあげちゃうよ、トラクターがほく (わたし) のものになるなら。
2. もう長い時間にはかからないだろう、そうしたら、トラクターにはほく (わたし) が乗るんだ。
村で農夫たちに見せつけてやるんだ、ほく (わたし) のトラクターに何ができるか、てのを。
3. そうしたら、地響きがするさ！
どんな遊びよりもすごいだろうな。
20頭の雄牛や馬だって、きっとその半分も働きやしないよ。

Überall, wohin man schaut



1. Ü - ber - all, wo - hin man schaut, wird auf - ge - baut.



Da ein Haus mit sie - ben Stock, dort ein gan - zer Häu - ser - block.



Ü - ber - all, wo - hin man schaut, wird auf - ge - baut.

2. Überall, wohin man schaut, / wird aufgebaut. / Da ein schönes Kinderheim, / dort wird eine Schule sein. / Überall, wohin man schaut, / wird aufgebaut.

Worte und Weise: Lotte Schuffenhauer

10

譜例2 《Überall, wohin man schaut (見渡す限り至る所で)》

出典: *Sputnik, Sputnik, kreise* の10ページ。

【訳詞】(筆者訳)

- 1 見渡す限り至る所で建築工事中。
そこには、8階建ての家。あそこには、一区画に所狭しと建つ家々。
見渡す限り至る所で建築工事中。
- 2 見渡す限り至る所で建設中。
そこには、素敵な保育所が、あそこには、学校が建つだろう。
見渡す限り至る所で建設中。

Auf dem Bauplatz in der Stadt

The image shows a musical score for the song 'Auf dem Bauplatz in der Stadt'. It consists of two staves of music in G major, 2/4 time. The first staff has a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The melody is written in a simple, rhythmic style. Above the notes are the chord symbols A, D, A, D, G, and D. Below the first staff is the first line of lyrics: '1. Auf dem Bau-platz in der Stadt lädt ein Au-to Stei-ne ab,'. The second staff continues the melody with chord symbols G, A, D, A, and D. Below it is the second line of lyrics: 'auch Be-ton so schwer und grau. Schnell geht jetzt der Häu-ser - bau.'

2. Hält ein Möbelwagen an, / bringt die neuen Mieter dann. / Frohe Menschen, groß und klein, / ziehen in das Haus nun ein.

Worte und Weise: Hannelore Barteld

15

譜例3 《Auf dem Bauplatz in der Stadt (町の建築現場で)》

出典： *Sputnik, Sputnik, kreise* の15ページ。

【訳詞】(筆者訳)

- 1 町の建築現場に、(積んできた) 石を車から下ろすんだ。
コンクリートもね、とっても重くて、ねずみ色をしてるんだ。
今ちょうど急ピッチで、お家を建てているところだよ。
- 2 家具を搬ぶ一台の車が止まって(荷物を下ろして)、それから、新しい住人たちを連れて来るんだ。
大人も子どもも、陽気な人たちがその家に住むんだ。

